



20 芙蓉野薔薇に白鷺図

岡本秋暉

対幅

紙本着色 江戸時代(十九世紀)
本紙各八一・〇×二七・三

右幅には、野薔薇の下で清流に憩う番いの白鷺が、左幅には芙蓉と白鷺が描かれる。小画面ながら、秋暉らしい巧みな筆使いと淡い彩色の濃淡の変化によって、むしろ花や鳥の表情がみずみずしく感じられる。

岡本秋暉(一八〇七〜六二)は、写実を重視した画師で、特に花鳥画では椿椿山と並び称された名手である。小田原藩主大久保家に仕えながら画業をこなして一家をなした人物で、渡辺華山の指導も受けた。実際の写生を通しての作品制作を行い、小田原城の障壁画も手がけている。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花鳥―愛でる心、彩る技（若冲を中心に）

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 40

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年三月二十五日発行

©2006, The Museum of the Imperial Collections